令和3年　12月　17日発行

千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会　広報紙

ちば発

第42号

暮らしを拓く

「船橋市グループホーム連絡協議会について」

船橋市グループホーム連絡協議会　事務局　宮本福太郎

船橋市の人口は現在６４万人を超えています。これは中核市の中では全国一の人口数とも言われおり、今もなお増え続けています。現在、船橋市内の障害者グループホーム事業所数は４０か所以上、ホームの総数は１５０カ所以上（定員数も８００名以上）となり今後も増加していくと見込まれています。

船橋市ではかねてよりグループホームの空室情報が集約されておらず、各施設や法人ごとの管理となっていました。そのため利用を希望される方は都度、事業所に直接電話をして確認をしなければならない状態でした。また、グループホームの整備運営に関する相談窓口が無いことなども課題となっていました。

平成３０年１月より、船橋市においても「地域生活支援拠点の体制整備を検討するワーキンググループ」が発足されました。ワーキンググループの話し合いの中で上記の課題について、船橋市の良い面として既存の障害福祉サービスが充実している部分を活かし、面的整備をベースに一部の足りない機能を新たに付け加えるイメージで整備を進めるという方針が出来上がり、拠点コーディネーターの配置と併せて地域生活拠点の一部として船橋市グループホーム連絡協議会の設置が決まりました。当初、ワーキンググループの中ではグループホーム等支援ワーカーの設置を望む意見も出てはいましたが、業務負担が大きい事から連絡協議会の事務局と言う形で①市内のグループホームの空室状況の集約と利用が必要な方への情報提供、②定期的な研修会等の開催、③市内のグループホームの立ち上げや運営への助言を行う事となりました。

船橋市グループホーム連絡協議会が設置されたのが令和元年の１０月からとまだ日が浅く、これからと言う時に新型コロナウイルス感染症の影響で予定していた活動はほぼ停止状態になり、未だ収束したとは言えない状態です。その為、皆で集まって研修会を行う等の活動が出来ていないのが現状です。

現在は登録している事業所に訪問して見学や聞き取りを行い、事業者が抱えている課題や日々行っている支援等のお話を伺いながら毎月の空室状況の確認も合わせて責任者等と意見交換を行っております。事業者の相談やホームを探されている方からの相談も開設当初に比べて倍以上の件数となってきており、連絡協議会の動きも自然と広がって来ています。

まだまだ空室状態が続いているホームも多く、中には行く先々で定着出来ずにホームを転々と移動される方もおられます。今後は研修会や事業者同士の繋がりが持てる様な機会を作って船橋市全体の支援力の底上げが図れればと考えております。

また、グループホームは地域生活支援拠点システムにおいても最も重要な社会資源の一つであると認識しています。事務局としては、緊急時の相談にも臨機応変に対応して頂けるホームとの繋がりを大切にしながら、事業者の支援サービスの向上と利用者の満足度の双方を高めていけたらと考えております。

第４５回千葉県障害者グループホーム講座報告

今、必要とされているグループホームとは？
～強度行動障害・重度障害の方々を一軒家タイプで支援する～

東葛地区担当の当該講座は「今、必要とされているグループホームとは？～強度行動障害・重度障害の方々を一軒家タイプで支援する～」と題し、鎌ケ谷市で強度行動障害・重度障害の方々を支援している株式会社ヒロイチカンパニー代表取締役佐藤弘江様を講師として招き、ZOOM 開催しました。

ここ数年、東葛地区では軽度の方を対象としたグループホームが激増する一方、重度の方が入居できるグループホームは少なく、取り残されている現実があります。重度の方が入居できる日中サービス支援型グループホームへの期待は高まっていますが、私たち東葛地区グループホーム支援ワーカーは、あえて少人数の家庭的な“一軒家タイプ”にフォーカスしました。また、当該講座では「重度の方を受け入れてみたい！」と手を挙げる事業者がどれだけ存在するのか？を確かめる狙いもありましたが、予想を超える７５名の参加人数となり、将来への希望が持てたことが大きな収穫でした。今後は、当該講座で再確認したノウハウや人材面の課題について各事業所・関係機関などと連携していきたいと思います。

第４６回千葉県障害者グループホーム講座報告

職員のスキルアップと人材確保について～
グループホームで楽しく、活き活き働きたい！

第４６回千葉県障害者グループホーム講座のテーマは「職員のスキルアップと人材確保について～グループホームで楽しく、活き活き働きたい！」でした。世話人・支援員の人材確保、人材育成は様々なグループホームで聞く共通の悩みです。

今回の講座では、人材育成や人材確保に関しての好事例として、合同会社縁様と医療法人社団聖母会様のグループホームの取り組みを YouTube での動画配信で紹介させていただきました。

講座をご覧になった方からは、参考になったという意見を多く頂戴しました。特に、両法人様の職場の雰囲気作りや職員同士のコミュニケーションのとり方を参考にしてみたいという声が多かったです。どちらの法人様も管理者と職員の方々がお互いの思いを話し合い、尊重し合っている姿勢があり、私自身もその姿勢を学んでいかなければと思いました。

今回の講座の申込数は９１件でした。来年度の講座では、さらなる、申込み件数を目指し、また、グループホーム関係者の枠にとらわれず、様々な方に申し込んでもらえるようにしていきたいです。

～第 13 回千葉県障害者グループホーム大会のお知らせ～

今年度も YouTube での web 配信を予定しております。**テーマ「自分らしく生きるための意思決定支援とは」**

配信期間：2022/2/14（月）～2/28（月）

詳細は県のホームページまたはお近くの GHW にお問い合わせください。

ぶらりホーム訪問

視覚障害者グループホーム訪問記　[ease（イーズ）]

２０２０年１０月、船橋市に男性専用視覚障害者向けのグループホーム〈ease〉が開設されました。今回の訪問先は２０２１年12月に開所されたばかりの２棟目の〈ease Ⅱ（イーズツー）〉です。〈ease Ⅱ〉は、男性専用視覚障害者向けの住まいで、住宅街の一角だが窓からはネギ畑が見える日当たりのよいサポート付きシェアハウスと言う感じのグループホームです。設計の段階から株式会社 oneself(ワンセルフ)代表取締役の飯田大介氏が携わり、新築でスプリンクラーが装備された機能的な建物です。そして、非常電源も設けていて、非常時には灯りがとても大事なのだとのお話があり、視覚障害への配慮の一面を教えてもらいました。入居者の方に、光と風を感じてもらいたいので部屋には２ヶ所の窓の配置をしたと飯田氏。どちらのホームも買い物や公共交通機関を利用するにも便利な場所にあり、定員は６名です。

＜ ease Ⅱ＞の工夫

①玄関入口には洗面台が備え付けてあり、入室前に感染予防ができる。
　（あちこち手で触る事が多い為）

②白色と黒色の認識がしやすいので、ドアの色は濃い色にしている。

③共有スペースである食堂に、声で指示が出来るスマートスピーカーを設置している。
　（音楽等が流れる憩いの場の提供）

④視覚障害があっても使いこなせる家電製品の数々を用意している。
　（炊飯器の内釜を触れば凹みで目盛りが分かる、スイッチが単純で使いやすい、など）

日中は就労事業所に通う利用者が時には同行援護サービスを利用してヘルパーと外出します。そして一人暮らしに向けて生活準備をする方のサポートも行います。この地に住んで、周りの方々からのあたたかいお声かけやつながりに支えられていると、案内していただいた飯田氏はおっしゃいます。

ライフステージに合わせた自分らしさの実現の為に、利用者とスタッフが共に考え、意見を交わして”ease”を創り上げていきたいと想いを語ってくださいました。

利用料金	
家賃	５０,０００
食費	１５,０００
光熱費	１０,０００
日用品費	１,５００

きどあいらく 起努逢楽 のコーナー

『起業する努力、出逢いがあって楽になる』障害者グループホーム等支援ワーカーは新規開設のお手伝いをします！
また開設後の応援もしています！

昨年 12 月から障害者グループホーム等支援ワーカー（以下支援ワーカー）に就き、1 年が経とうとしています。それ以前は児童心理治療施設に心理士として配属されながら、心理面接と生活場面の支援をしていました。そんな中、一人の入所児の退所後の行き先としてグループホームの案が上がり、当時の習志野圏域の支援ワーカーに支援をしていただいた時には、『グループホーム』という言葉は知っていましたが、どういった場所なのか、わからない事がほとんどでした。そんな私が今君津圏域の支援ワーカーという立場にあるのは、奇縁を感じてなりません。

新型コロナウイルス感染症禍であったこともあり、中々圏域のグループホームにお邪魔することも叶わず、入居のお手伝いで関わりながら、見学をさせていただいていました。どこのグループホームも特有の雰囲気があり、日常の流れ方、世話人の方達の佇まい、どれをとっても同じものはなく、入居者の方はそれぞれの雰囲気で楽しく暮らせていらっしゃるようです。

雰囲気が違いながらも入居者の方が楽しく、安心して暮らせているのは、基本的信頼感・安心感といったものがちゃんとあることだと思います。この言葉自体は発達心理学の用語で、乳児期の子供の欲求に養育者が応えていくことで、『欲求がすぐに解決されなくても自分のことを誰かが見てくれる』『自分は生きていてもいい存在だ』と実感していきます。乳児に限った話ではなく、おそらくグループホームでも入居者の方達も、抱えた気持ちや悩みを聞いてくれる世話人の方々を筆頭に、障害をはじめとした様々な背景を持ちながらもありのままを受け入れてくれる存在は、まさに基本的信頼感が保障された居場所です。日々の生活はただ平穏であるわけではなく、皆さんの日々の言葉かけ、目配りといった細やかな気遣いから生まれているものなのだ、と気付かせていただいております。

グループホームの数が増えていく中、必要とされるのはただ雨風を凌げるだけの住まいではなく、入居者の方への援助をどのように行うのか、必要な援助とは何なのかを考えることだと思います。障害ひとつとっても様々な症状や課題があるため、簡単なことではありません。そのお手伝いとして、私自身、今後も知識とスキルを高めながら、事業者の皆様と共に、より良いグループホームの運営、入居者の方の暮らしに寄り添っていけるよう、努力していこうと思います。

君津圏域障害者グループホーム等支援ワーカー　片岡　健悟

君津圏域概況（令和３年１１月１日現在）

事業所数：47 事業所　定員数：903 名　ホーム数：180 住居（内サテライト型１住居）

編集後記

もうすぐクリスマスとお正月ですね。コロナ禍で昨年は出来なかった行事が、今冬は実施される事業所が多い事でしょう。生活の場面を彩るレクリエーションで楽しい時間を過ごしつつ、新しい年をお迎えください。

発行者　千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会

事務局　海匝圏域障害者グループホーム等支援ワーカー
旭市ロ－８３８
（社会福祉法人ロザリオの聖母会　海匝ネットワーク内）

編集担当
長生・夷隅圏域障害者グループホーム等支援ワーカー　金沢　千絵